

風土記の丘の花だより³³⁰

今、そしてこれから見られる植物(2026年7月18日)

梅雨があけて10日ほどたちました。連日の猛暑です。朝から30度を超えていることも珍しくなくなりました。水分を十分にとって、少しでも体調がおかしいなと感じたら、決して無理をせず十分に休息を取るようにしましょう。お互い、熱中症にならないように！！



谷山家住宅の南斜面の左隅にオトギリソウの黄色い花が咲いています。1センチほどの小さい花ですが、この色はよくめだちます。オトギリとは「弟切り」、自分の弟を斬り殺すという物騒な意味なのです。昔々、鷹匠の兄弟がいて、傷ついた鷹につける家伝の秘薬を弟が他人にもらしたことに兄が怒り、弟を斬り殺したという伝説が元になっています。その薬草がオトギリソウなのです。花の名前には、事務的(?)につけたような名前もあれば、こんなエピソードにまつわる興味深い名前もあっておもしろいですね。



真夏を更に暑くするような色の花、ヒオウギも咲き始めています。オレンジ色が多いですが、ところどころで黄色い品種も見ることができます。ヒオウギは「檜扇」のことで、葉の付け根の重なり具合がそれに見えることから名付けられました。種は真っ黒に熟し「ぬばたま」と呼ばれます。それで「ぬばたま」は黒、闇、夜、髪など、黒いものの枕詞になっています。和歌山の海南を詠った「いにしえに 妹と我が見し ぬばたまの 黒牛湯を 見ればさぶしも」という歌が万葉集に残っています



小早川住宅の庭などでミョウガの花が咲いています。地面すれすれに咲く薄黄色の花です。しょうが、ねぎなどととともに、そうめんの薬味としては欠かせませんね。それでか、毎年「みょうが泥棒」が出没して困っています。今年はそんな不埒な者が現れないことを願っています。花茎は地中であって、私たちが食べる部分から花が咲きます。花は一日でしぼむ儚い花ですが、次から次に咲くので長く咲いているように思います。食べるのなら、花が咲く前がお勧めです。



万葉植物園でセリの花が咲き出しました。まだ水が冷たい頃に摘んだセリはおいしいですが、花が咲く今の時期になると、それほどおいしくないと聞きます。でも、食べることはさておき、花を愛でましょう。純白の小さな花がたくさん集まって花序を作っています。同じセリ科のパセリやミツバなどの花とよく似ていますね。よく見ると花びらは5枚で、おしべやめしべが長く伸びています。

松下